



茶の香だより



保護や地域と共に歩む第五中学校を目指して

校長 榎戸 千代子

今年度も、学校運営協議会委員の皆様には、学習部、生活部、地域連携部の三つの部会の運営に御尽力いただきました。コミュニティ・スクールとして保護者や地域の皆様に関わっていただくことで、学校だけではできない様々な教育活動を展開することができました。

学習部では、漢字検定、夏季補習教室、3年生進路模擬面接等で生徒の学習や進路のサポートを、生活部では、年8回の防犯パトロール、校庭の芝刈り、校舎廊下壁ペンキ塗り等で防犯や環境のサポートを、地域連携部では、学校行事である五中フェスティバルや2年生職場体験等で地域人材の発掘や体験場所確保等のサポート等をしていただきました。また、「茶の香だより」の発行や「制服リサイクル」も実施できました。

改めて保護者、地域の皆様の御理解、御協力に感謝申し上げます。来年度も皆様とより一層の連携を図ってまいります。引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。

挨拶の土台作りは家庭教育、継続は力なり！

副校長 栗原 郁夫

●来校者から生徒の挨拶について、お褒めの言葉をいただく機会が増えました。皆様はどのように感じられているでしょうか。原稿依頼をいただくと、必ず挨拶のことが頭に浮かびます。引き続き、大人が手本の挨拶（大人から、笑顔で、目を見て、爽やかに）、これからもよろしく願います。

●今年度も学校運営協議会の皆様には、多方面でお世話になりました。ありがとうございました。子供たちの健全育成で、現在も、SNSに関するトラブルが大きな課題となっています。来年度のセーフティ教室（6月12日の予定）ではSNS業者を招いて、生徒向け、保護者向けの講演会を行う予定です。ぜひ、御参加いただければと存じます。

【武蔵村山の昔話】

学習部

安部 朋子

2020年、令和2年。記念すべきオリンピックイヤーです。歴史に残る年になりますね。

皆さんが住んでいる武蔵村山が「市」になって今年が50年を迎える事を知っていますか？

1917年（今から約100年程前）東京府北多摩郡村山村が成立。1954年町制を施行し村山町となる。

1970年11月3日市制施行。

当時、山形県に村山市が既に存在していた為に学識経験者や、自治会、学校関係で話し合いがもたれて武蔵村山市に決めたそうです。

本年は、50周年をお祝いして市内でも記念行事が有ると思います。市報にも掲載されていましたがFacebook等で「#MM50記念」をつけて、未来に伝えたい風景をシェアしようとありました。

皆さんも自らが育つ武蔵村山市の記念すべき歴史にも、目を向けてみて下さい。

御挨拶

学校運営協議会会長 西川 義則

日頃から本校学校運営協議会の活動にご理解ご協力いただきまして誠にありがとうございます。早いもので、五中学校運営協議会がスタートして6年が経とうとしています。前加園会長から2年間の会長職のなかで、学習部、生活部、地域連携部の各部長をはじめとする役員の皆様方のお力添えいただいたおかげで、任期を迎えることができました。本当にありがとうございました。感謝しかありません。そして本校教職員のみならず、特に校長先生、副校長先生ありがとうございました。いろいろな行事の中でご挨拶する機会を頂きましたが、最後までグダグダ挨拶が直らなくて申し訳ありませんでした。さて、4月より7年目の活動が新たにスタートします。学校運営協議会役員、教職員とも心機一転 もう一度、強力なタッグを組んで五中学校運営協議会を進めていけたらと思います。今後とも五中学校運営協議会の活動にご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。

感謝を込めて

学習部長 高橋 圭子

学習部におきましては、夏季補習教室における学習サポート事業、3年生の進路模擬面接、茶の香だよりの発行を軸としまして、地域という立場から学習事業を行わせていただきました。ひとえに、学校・保護者の方・地域の協力体制があったからこそと、あらためて振り返りながら実感いたします。

昨年末には、三年生の受験に伴います進路模擬面接を、保護司の皆様、先生方、学校運営協議会の役員の皆様にご理解・ご協力いただき、無事に行うことができました。面接に臨む生徒さんの真面目な姿勢や緊迫感を目の当たりにし、面接する側も、真剣に取り組んだとの声も伺いました。地域の大人に面接をしてもらった体験が、今後の人生に少しでもお役に立てればと思っております。

今年度をとおしまして、御理解・御協力いただきました皆様への感謝の想いでいっぱいです。今後も学習部は、地域の立場で、より良い学校づくりの一端を担えればと、さらに一丸となりまして活動してまいりたいと思います。大変にありがとうございました。

●お願い●

次年度も制服リサイクル事業を行ってまいりたいと考えております。ご卒業予定のお子様の制服の御寄付を心よりお待ちしております。詳細は、後日別紙にてお知らせの予定です。よろしくお願いいたします。

今年度の地域連携部を振り返り

地域連携部長 荒幡 善政

地域連携部は地域連携行事やボランティア活動等の活性化を目指して設立された部会です。主な活動として、五中フェスティバルの講座、講師開拓、ボランティア場所確保、開拓、職場体験学習の場所及び開拓などがあげられます。

今年度も6月29日に行われた五中フェスティバル、また、毎年9月には2年生の職場体験学習に多くの講師の方々、事業所にご協力いただきましてありがとうございました。

フェスティバルでは、先生方の配置、PTA 役員の配置等考えるとき、どうしても一つの講座の生徒数を多くして対応せざるを得ない時があります。年々生徒数は変わり、その年の傾向により生徒とのマッチングが難しいのですが、少しでもよくなるよう意識して開拓していく必要があります。開催時期も含めて、多くの皆さんにご意見を聞きながら、より良いものにしていければと思います。

職場体験では、逆に少人数の対応を求む事業所が多いため、多くの事業所先が必要となってきます。お知り合いで受け入れ可能なところがありましたら、協議会役員か、学校までお知らせください。

地域連携部は学校と地域との懸け橋です。今後も生徒らの育成、活動に地域の方々力を生かしていけるよう学校側と協力し活動して行きたいと思っております。

地域の絆

生活部長 加園 一茂

本校学校運営協議会生活部主宰による、五中校区防犯パトロールも今年で7年目(約90回)となりました。

毎回約30名の学校関係者・地域ボランティア団体の皆様に参加頂き、五中校区(二・八・十小、五中)の通学路や公園等のパトロールを行ってまいりました。

防犯パトロールを通してあらためて五中校区の連携力、そして絆の強さを感じることが出来ました。本当に素晴らしい地域だと思っております。

来年度も引き続きご協力頂きますよう、宜しくお願い申し上げます。

生活部では校庭の芝の管理や、毎年3月末に行う校内廊下のペンキ塗りも行っております。来年度も引き続き、より良い学校環境づくりにも積極的に取り組んで行く所存でございます。

山口局長の『手紙のマナー』

●最後のお話は、封の閉じ方について解説します。

封筒の封の部分、糊(のり)で閉じます。セロハンテープやホッチキスで閉じるのはマナー違反です。剥がれないようにしっかり閉じ、封じ目の真ん中に「×」、あるいは「緘(かん)」と書きます。また、お祝いの場合には、「賀」や「寿」の文字を書きます。なお、婚礼関係の手紙では「切る」という忌み言葉につながらない為に、中央部分だけ糊付けし、はさみで切らなくても開けられるようにするのがマナーになっています。

★一年間、『手紙のマナー』にお付き合いいただき、ありがとうございました。

武蔵村山市中原郵便局長 山口晴美

